

長野県東信地域のカラ松が好調だ。年末に向け、素材生産業者や製材工場に繁忙感が広がっている。合板、集成材ラミナ、L V L、杭丸太等いずれも前年水準を上回る引き合いがある。木質バイオマス発電所の建設も決まり、地域を挙げて産地化形成に取り組んでいる。

東信木材センター協同組合連合会(長野県小諸市、田中高徳理事長)は10、11月の取扱量がともに1万7000立方メートルを超え、単月取扱量として過去最高を記録した。2017年度取扱量は16万立方メートルを超えて記録更新中だが、18年度も17万立方メートルが視野に入ってきた。国有林に加え、民有林も主伐・再造林が

# カラ松最盛期で繁忙感

## 長尺杭丸太に引き合い

### 長野県東信地域

ている。当センターは30万立方メートルに向けて数字を伸ばすしかない(小相沢徳一専務)と意気込んでいる。杭丸太を得意とする

増えており、安定供給が需要を生む好循環が継続している。価格もカラ松4割中目、1万4500円(立方メートル)と堅調推移している。「市町村有林や財産

区)の山林の多くが伐期を迎え、限界にきている。それぞれの地区を担当する素材生産業者は山の手当てが進んで0000本単位の引き合いがあり、需要に追いついていない。東京五

輪関連は一段落したが、地盤改良工事に使う長尺杭の引き合いが好調だ。双葉林業は、長さ9

注文が相次いでいる。前年水準に比べ1割増の引き合いがあり、「9、10月の3カ月で5、6割の杭を主体に1万本以上出荷した」とい

東信地域はこのほど、木質バイオマス発電所の建設も決まった。出力1990kWで燃料チップ使用量は年間約3万ト。カラ松は



引き合いが伸びているカラ松杭丸太

水分率が低く、燃料チップとしても高く評価されている。素材生産が活発な東信地域は低質材の底上げも進み、産地化形成に向けて機運が高まっている。由井正安(吉本専務)は「いま仕事ができるのは、前の世代の仕事がきちんとしていたかが活発な東信地域は低質材の底上げも進み、産地化形成に向けて機運が高まっている。由井正安(吉本専務)は「いま仕事ができるのは、前の世代の仕事がきちんとしていたか